

1. 調査結果概要表

作成日 平成20年6月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2771601974
法人名	社会福祉法人こぼと会
事業所名	グループホームたんぼぼ
所在地	大阪府吹田市山田東2丁目31-5 (電話) 06-6816-3810
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成20年5月29日

【情報提供票より】(20年4月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	26人	常勤	18人, 非常勤 8人, 常勤換算 23.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	1～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(2,000,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,800円	

(4) 利用者の概要(4月15日現在)

利用者人数	26名	男性	5名	女性	21名
要介護1	0名	要介護2	7名		
要介護3	12名	要介護4	3名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.6歳	最低	72.8歳	最高	99.1歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いのこの里診療所 池田歯科 まつもと歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームたんぼぼ」は大阪モノレール万博記念公園駅より徒歩12分のところにあり、閑静な住宅街の緑豊かな環境に恵まれたデイサービスセンター併設のグループホームである。グループホームの理念として「いつでも、どんな時にも人として尊重され、自分の思いを大切に暮らせる」を掲げている。家庭的で落ち着いた雰囲気の中、一人ひとりのこれまでの生活やプライバシー・プライベートを大切に「心に寄り添い」生きることが喜びとなるような支援を目指している。開設5年を経て、利用者の身体的機能の低下、認知症の進行などが顕著になるなかで、職員は一人ひとりに寄り添いながら、「人として大切にされる」ことを大切に個別の支援に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であった「入居後の利用者情報の共有・把握の方法が各ユニットで違いがありそれらの蓄積が不十分な点」について、管理者とユニットリーダーが中心となって検討し、まずは利用者同士の交流から利用者情報の共有への取り組みを始めている。今年も引き続き取り組む予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しているが、今年度は管理者・ユニットリーダーが中心となって取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会会長・NPO法人シルバーアドバイザー・社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー・PTA役員・寺院の僧侶・公民館館長・介護相談員、利用者とその家族等が参加している。以前は3ヶ月毎の開催であったが、今年4月から参加者の要望で2ヶ月毎に開催している。地域高齢者の相談窓口、電話相談、ホーム行事にボランティア派遣、自治会へ場所提供等種々の意見交換を行い地域のネットワーク作りに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月利用者の様子やホームの催し等を編集した「たんぼぼだより」と預かり金の収支報告等を家族に郵送している。また、3ヶ月毎に看護師や介護主任より健康状態や生活の様子を手紙で伝えている。家族等の訪問時にはその都度利用者の様子を伝えている。2ヶ月毎の家族懇談会では常に問いかけ、意見を伺っている。出された意見や苦情等は全体会議等で検討し運営へ反映させている。介護相談員を受け入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老会・自治会・小中高等学校等のスポーツや文化的な催し、公民館クラブ、地元神社の秋祭りに参加、また地域の様々なボランティアとの交流を行っている。地域の認知症をテーマにした市民講座へ職員を講師として派遣している。幼稚園の頃から遊びに来ていた近くの子供が、小学校3年生になった今でも友達を誘って時々訪問しており利用者が楽しみにしている。

2. 調査結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「グループホームたんぽぽ」では、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく役割を反映した、事業所独自のわかり易い理念を掲げている。また地域との交流の必要性が運営方針に盛り込まれ、それらの取り組みを日々行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念及び運営方針を各フロアのわかりやすいところに掲示している。新任研修や全体の法人研修で理念及び運営方針の説明を行っている。毎年の事業運営計画を基に、各ユニットごとに職員が具体的に取り組む課題を計画しそれらを実行している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会・自治会や地域の小中高等学校等のスポーツや文化的な催し、公民館クラブへの定期的参加、地元神社の秋祭りへの参加、また地域の様々なボランティアとの交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解している。昨年の評価結果で課題となった「入居後の利用者情報の共有・把握の方法が各ユニットで違いがありそれらの蓄積が不十分な点」について、管理者とユニットリーダーが中心となって検討し、まずは利用者同士の交流から利用者情報の共有への取り組みを始めている。今年も引き続き取り組む予定である。	○	全体会議などで話し合い、検討した内容等について記録が作られていない。課題について改善計画シート等に記入して課題を整理し、どのように取り組んだかその実施状況などを記録に残し、次のステップアップにつなげていくことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会会長・NPO法人シルバーアドバイザー・社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー・PTA役員・寺院の僧侶・公民館館長・介護相談員・利用者とその家族等の理解と協力を得て運営推進会議を開催している。以前は3ヶ月毎の開催であったが今年の4月から参加者の要望で2ヶ月毎に開催している。地域在宅高齢者の相談窓口や電話相談、ホーム行事へのボランティア派遣、自治会への場所提供等種々の意見交換を行い、地域のネットワークづくりに取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内の同業者及び介護保険課職員による部会を設け、互いの施設を見学し意見交換をするなどサービスの質の向上に取り組んでいる。また社会福祉協議会等を通じてボランティアとの連携をとっている。法人全体として市担当者と懇談会を定期的に行っており、市担当者に現場を訪問してもらい、現状を把握してもらうことも要望している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の様子やホームの催し等を編集した「たんぼぼだより」と預かり金の収支報告等を郵送している。そして3ヶ月毎に看護師や介護主任より健康状態や生活の様子を手紙で伝えている。家族等訪問時にはその都度利用者の様子を伝えている。また利用者ごとにアルバムを作成している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には来訪時や2ヶ月毎の家族懇談会では常に問いかけ、意見を伺っている。出された意見や苦情は全て記録し、全体会議及び法人事務局も関わりながら検討し、運営に反映させている。また、介護相談員の受け入れを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者・フロア主任が職員と日ごろからコミュニケーションをとる事によって職員の状況をよく把握し定着の一助にしている。また事務室の人員を増やすことによって、介護に専念できるように職員をフォローできる体制づくりに取り組んでいる。やむを得ない離職等で職員が交代するときにはフロア主任が1ヶ月引継ぎを行う。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を策定し、全職員が力量に応じて段階的に必要な研修を受けられるように取り組んでいる。また、職員の資格取得については施設として応援する体制づくりに努めている。○JTでは気づきや創意工夫を大切にしており、新しい職員が納得するまで何回でも時間をかけて行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市介護保険事業者連絡会、吹田市地域ケア会議等に所属し、積極的にリーダーシップを発揮して交流会や研修に参加している。また、全国的な組織である21世紀・老人福祉の向上を目指す施設連絡会の交流会では毎回レポート発表を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1階のデイサービスセンターと協力して、「通い」から「泊まり」への流れを作り、徐々にグループホームに馴染めるように心掛けている。また、日頃からグループホームとデイサービスセンターを自由に行き来しながら、利用者同士が交流する中で、安心して利用できるよう取り組んでる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者と職員は人として対等であり、一方的に介護されるものではない」として利用者と一緒に過ごせる喜びと感謝の気持ちを伝えている。お互いの悩みを相談したり、経験などを話し合い、喜怒哀楽の共有に努め支え合う関係作りに努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族の意向を聞き取り、アセスメント記録に残し、介護計画に反映している。普段から一人ひとりに寄り添い、思いや気持ちの把握に努めている。入居後に得られた情報は申し送りやミニカンファレンスなどで職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成している。家族の来訪時には利用者の現状や思いを伝えて家族のニーズを反映させた介護計画作成に努めている。これからは家族等にケアカンファレンスへの参加を働きかけていくことを検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、体調やADLの変化に応じて随時見直しを行っている。必要時には職員が通院に同行し医師と細やかに情報交換を行い、現状に沿った見直しを行っている。また、チェック表に介護計画の目標を基に日々の実践、結果、気づきなど記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人は特別養護老人ホーム、保育園、デイサービスセンター、診療所、グループホームなど幅広く地域に密着した福祉サービスを提供しており、法人の機能を生かした支援体制は整っている。グループホームとしては地域高齢者の相談窓口、電話相談、自治会の会議場所として併設デイサービスの開放等、より地域に密着したネットワーク作りに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診が出来るように支援している。基本的には家族の同行受診であるが、専門医受診や緊急時には職員が同行することがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「看取りの指針」を説明し家族の同意を得ている。利用者の容態変化に応じて医師、看護師、家族等と繰り返し話し合いを持ち方針の確認を行っている。開設以来2名のターミナルケアを行っているが、今後の重度化への対応について看取りケアのあり方等現状の問題について検討の必要性を認識している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録類は利用者、家族、訪問者の目に安易に触れないように、ステーション内で管理、保管している。また、利用者のプライバシーを損ねないように日頃から職員の言動には注意を喚起している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の大きな流れはあるが、日課は設けず、利用者一人ひとりのその日のリズム、思いや希望にそって、その人らしい日々の暮らしが出来るように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が作成し厨房で調理している。ご飯と味噌汁は各ユニットで準備している。利用者のできる力を活かしながら、できる範囲で盛り付け、配膳、食器洗い等に参加している。また、誕生日のお菓子作りには、厨房で焼いたケーキの飾りつけを職員と一緒にやる事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴時間は固定せず、利用者の体調や希望に合わせて入浴できるよう支援している。入浴を拒む人には「後でマッサージしますよ」等の声かけを行っている。入浴介助は同性介助を原則としている。1階の浴室については老朽化に伴い改装工事をする予定である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付けや配膳、食器洗いの後片付け、洗濯物干し等利用者が自発的な役割を持って過ごせるよう各ユニットで取り組んでいる。歌体操、フォークダンス、音楽療法、コーラス、喫茶等をボランティアの協力で開催し利用者の希望で自由に参加できるよう支援している。デイサービスの催しにも自由参加できる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や喫茶店、美容院等への外出は利用者の希望に添って個別支援をしている。近隣の和菓子屋さん、スーパーマーケットの方とは顔馴染みになっている。重度の人にもホームの庭園や中庭等に出られるように支援している。昨年は、利用者夫婦の帰郷支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階から3階までホーム内を自由に行き来できるよう、エレベーター、各ユニットの入り口は開放している。階段は転倒防止のため柵を設けている。エレベーターのボタン操作が解らない人には職員が操作を教えている。利用者の安全を確保しながら、本人の行動範囲の拡大に努めている。安易に鍵をかける発想はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災避難訓練を実施している。緊急時の対応マニュアルを作成し、職員から家族への連絡体制をとり、近隣の消防団の協力も得ている。スプリンクラー。防火扉も設置している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用して食事、水分摂取量を把握している。1日1200~1300カロリーを目安にしているが1日のトータルで摂取できるように配慮している。職員が検食を行い、食材、味付け等をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには大きな額入りの「書」が展示され、窓際に茶箆筒、壁に和風等が飾っており、和風の落ち着いた作りである。エレベーターの中には、行事の写真が張ってある。居間と食堂は移動しやすいようバリアフリーになっており、居間には座りやすい大きなソファやテレビ、週刊誌、アルバム等があり、家庭的で過ごしやすい場所作りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には箆筒、ソファ、時計、家族写真、仏壇等利用者が使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。家族や利用者の希望により床にカーペットや畳を敷いた居室もある。明るい色のカーテンで部屋の雰囲気を変えたり利用者が安心して居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。